

多様な子どもたちとの 交流保育

富士吉田市立第四保育園

堀内 いづみ

富士吉田市立マザーズホーム

渡邊 規子



はじめに

富士吉田市立第四保育園とマザーズホームは、同じ施設内に併設されており、保育園内で、マザーズホームは、ひまわりぐみと呼ばれている。

以前から広い園庭で遊んだり、交流保育を目的とした誕生会・避難訓練・夏まつり等の行事は、一緒に行ってきた。

しかし、新型コロナウイルスの流行に伴い、交流が遠ざかってしまった。

令和5年の5類移行後より、交流を再開し、まずは生活や遊びの中で、顔見知りになることからスタートする。

当施設の概要

第四保育園

3歳以上児 85名

3歳未満児 38名

マザーズホーム 13名



保育の場で気に留めたい、多様な子ども たちとは・・・ 様々な家庭形態

外国につながる子

家庭環境に配慮が必要な子

ステップファミリー

里親

L G B T Q

A S D
(自閉スペクトラム症)

知的障害

LD
(学習障害)

身体障害

ひとり親家庭

養子縁組での親

医療的ケア児

多胎児・年子

A D H D
(注意欠陥多動症)

DCD
(発達性協調運動症)

共有スペースの見直し

- ・スロープの壁に
遊具の取り付け



- ・玄関ホールに
運動遊具コーナー



興味を引く玩具の設置



ここには、クイズが
あります。

園の中に工夫を凝らし、関わり合いが育ちあう保育を目指す

マザーズホームでの取り組み

- ・実践1：就学に向けた取り組み

遊びに行くが保育室内には入らない
クラスの友だちと一緒に、短時間で、楽しめる所から。

『同じ』でなくていい集団活動

友だちを覚え、一緒に学校に行くという安心感



第四保育園で遊ぶ
園児

第四保育園
ホールで遊ぶ園児



第四保育園との行事に参加

ブルーベリー狩り



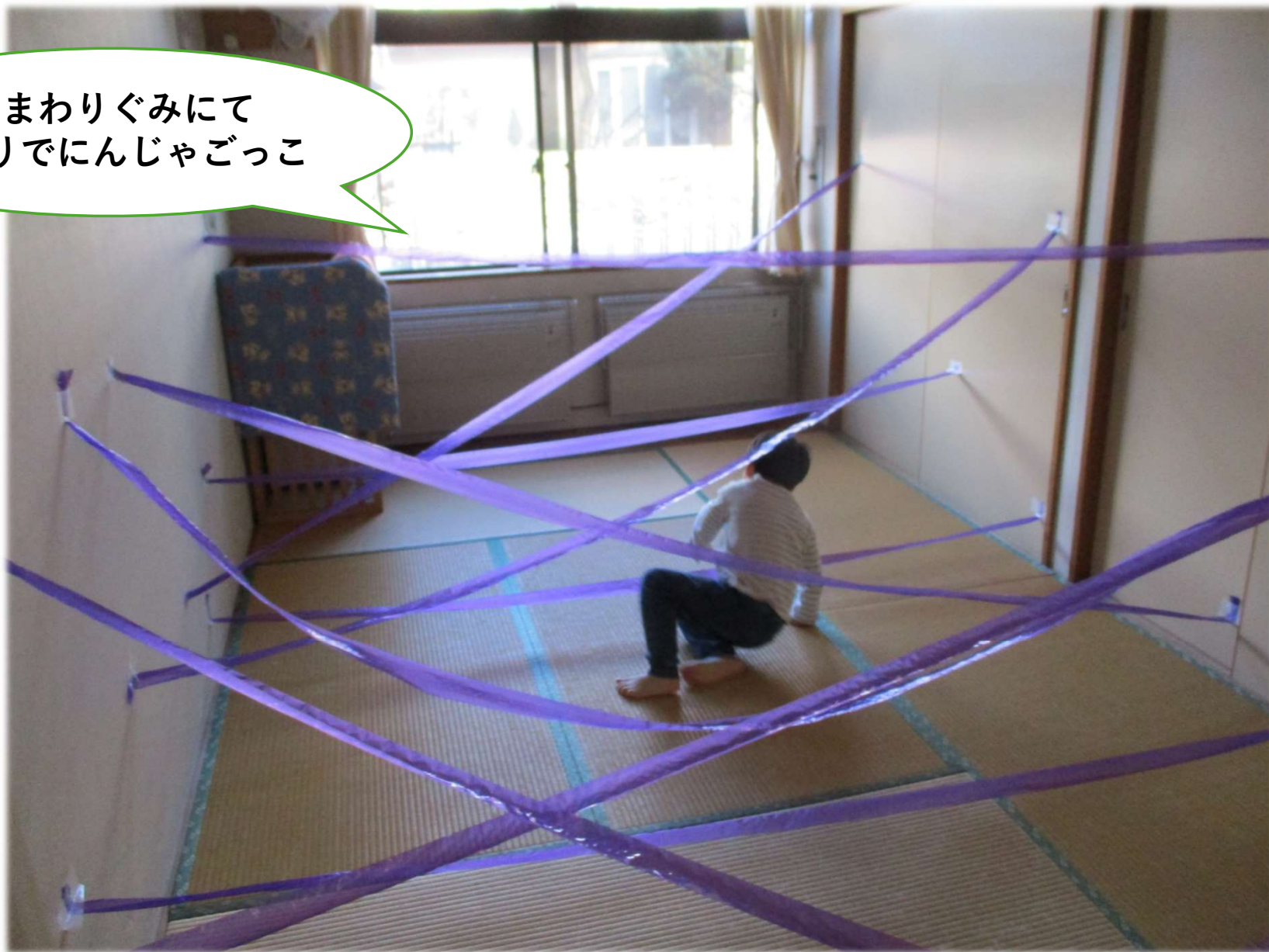
世界遺産10周年イベント
への参加



年長児クラスで仲良しの
友達ができ、年長遠足で
は一緒にアトラクション
に乗り、喜んでいました。



ひまわりぐみにて
ひとりでにんじゃごっこ





第四保育園の年長児を
招待しての忍者ごっこ
へとあそびが発展



就学に向けた保護者の迷い

- ・ 保育参観、個別懇談を通して、就学に向けての思いを早い段階から 共有する
- ・ 関係機関との連携（保健師・心理士・すこやか相談等）
- ・ 学校見学、授業体験参加後、一緒に考える時間を持つ
- ・ 保護者の決断に寄り添い、就学までの見通しを立てていく

・実践2:進級に向けた取り組み

担当と二人で行くが、すぐにクラスに戻ってきてしまう

まずは、ひまわり組に来てもらって遊ぶことから始める

一緒にいて楽な友だちの名前を覚えた

ひまわり組で遊ぶ年長児



第四保育園との行事に参加

サッカー教室



一人ではなく、何人かと一緒に参加する



マザーズホーム運動会



進級に向けた保護者の迷い

- ・ 保育参観で子どもの姿を知る
- ・ 個別懇談で保護者の思いを共有する
- ・ 保育園年中児の活動を見学する
- ・ 現年長児の活動を知ってもらう
- ・ 交流の様子を見学する

進級後の様子

第四保育園と合同の夏祭り
盆踊り練習



年長児参加の市民夏まつり



集団の刺激や児の成長を感じられ、保護者や保育士同士が共有できる場面
子どもの表情から自信に繋がっている様子が感じられる
スムーズな移行が保護者の安心感に繋がる

就学・進級を見据えた流れ

- 1) 進級に向けた保護者の思いを、個別懇談で共有する
- 2) 関係機関と連携（すこやか相談・保健師等）
- 3) 交流を進めていく中での様子をお知らせする
- 4) 交流の様子をそっと見てもらう
- 5) 就学・進級への決断
- 6) 就学・進級に向けての見通しを立て共有する

第四保育園とマザーズホームの連携が必須

令和6年度の様子

家庭支援

兄弟姉妹での在籍児

家庭支援から入所した場合
同じ対応ができるように確
認しあっている

ミュージックケアでの交流

毎月のミュージックケアには、保育
園児が数名参加

一緒にかけ回っている中で、
楽しそうだな・やってみようか
なと感じ、良い刺激になっている

ミュージックケア
の様子



『成果と課題』

成果

同じ施設内だからこそできる交流保育は、子どもたちの良い刺激になっている

自分らしさを大切にしながら、集団を経験していくことで、それぞれの子どもたちの成長が見られる

保育士同士も互いの保育を共有できる

子どもたちは、みんなが公平であり、色々な友だちがいることを自然に感じられる

課題

保育の場で気に留めたい多様な子どもたちには、L G B T Q（性別のあり方）もある。幼児期は自分の性別に対する意識がテーマになるのか？

保育園では男の子でもスカートを穿いて、ままごとで遊び
男の子だから女の子だからという姿は見られない
就学後、お尻を出して排泄していたり、周りに人がいても着替えてしまったりする子がいることを知る

生活の中での排泄場面や水遊び、身体測定等、見直す必要があり、今の時代に合わせた疑問を持つことが大切になると感じている

保育で決めつけず、柔軟で受容的な対応が必要になること、時代に寄り添った保育の更新や保育士自身の成長が課題になる

おわりに

気になる子や配慮を必要とする子が増え、子どもたちの姿も以前とは変わり多様化してきている。

子どもたちはみな、公平であり、いろんな友達がいることを自然に感じている。今後も同じ施設内に併設された環境を生かしていけるように、日常の保育の中で、《いっしょに》・《ともに》を大切にしたい関わりができる交流保育を大切にして取り組んでいきたい。

ご清聴ありがとう
ございました

